

2026年3月期第2四半期決算説明

2025年11月10日

 日本カーバイド工業株式会社



2026年3月期第2四半期決算の概要



サマリー【連結損益計算書】

- 電子・機能製品事業は、光学関連分野向け粘・接着剤が中国市場での競争激化により出荷が減少するも、医薬品や農薬向け製品の出荷が増加。
- フィルム・シート製品事業は、米国追加関税措置により米国向け製品の出荷が減少するも、ブラジルでの二輪車関連製品や欧州でのナンバープレート向け製品の出荷が増加。
- 建材関連事業は、戸建住宅用アルミ建材の売上が増加。
- エンジニアリング事業は、EPC事業（Engineering：設計 Procurement：調達 Construction：建設の3工程を一貫して引き受ける事業）の拡大により売上が増加。
- 米国追加関税措置による直接影響は1億円程度。
- 以上の結果、前年同期比**増収増益**。

	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	23,370	24,262	891	+3.8%
営業利益	1,263	2,093	830	+65.7%
営業利益率	5.4%	8.6%	—	+3.2ポイント
経常利益	1,381	2,363	982	+71.1%
中間純利益	847	1,531	683	+80.6%

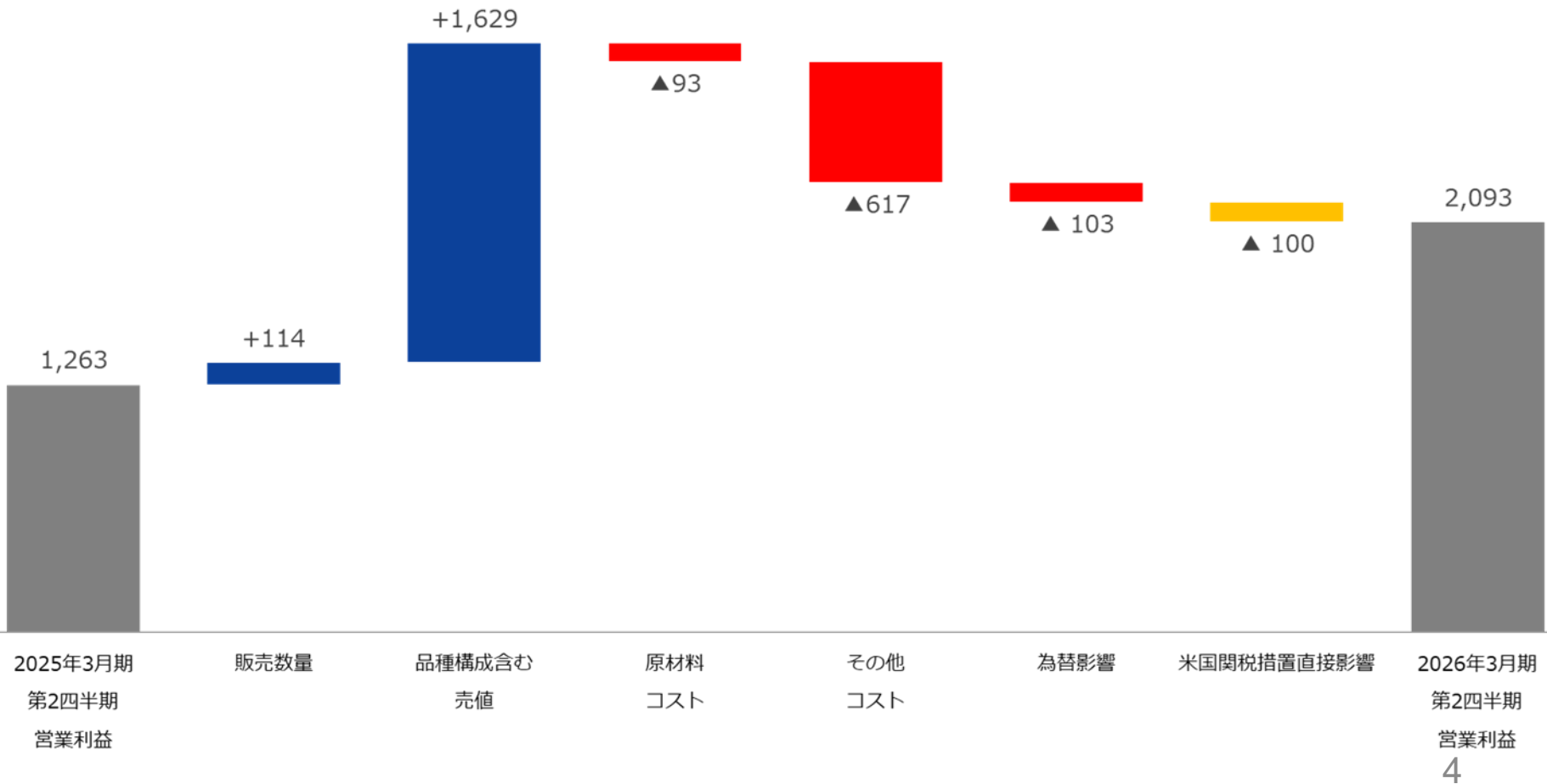
営業利益増減要因分析

2025年3月期第2四半期v.s.2026年3月期第2四半期



前年同期比 830百万円増益

単位：百万円



セグメント別業績



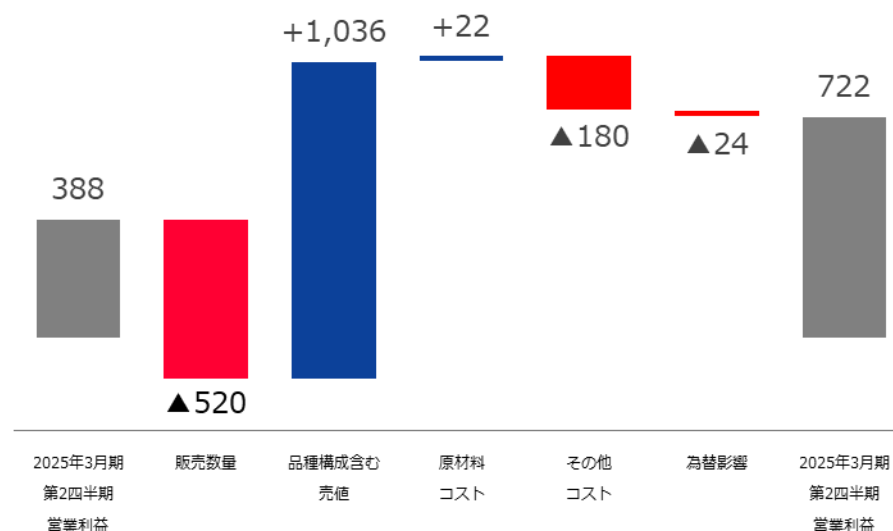
		2025年3月期第2四半期	2026年3月期第2四半期	前年同期比	
		実績	実績	増減額	増減比
電子・機能製品	売上高	8,621	8,261	▲ 360	▲4.2%
	営業利益	388	722	333	+85.9%
フィルム・シート製品	売上高	9,963	10,460	496	+5.0%
	営業利益	966	1,413	446	+46.2%
建材関連	売上高	3,501	3,749	247	+7.1%
	営業利益	11	78	66	+560.5%
エンジニアリング	売上高	1,422	1,911	488	+34.3%
	営業利益	91	190	99	+109.7%
連結調整	売上高	▲ 138	▲ 120	18	-
	営業利益	▲ 194	▲ 311	▲ 117	-
連結合計	売上高	23,370	24,262	891	+3.8%
	営業利益	1,263	2,093	830	+65.7%



セグメント別状況 電子・機能製品事業

単位：百万円

	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	8,621	8,261	▲ 360	▲4.2%
機能化学品	1,889	2,359	470	+24.9%
機能樹脂	3,907	2,988	▲ 919	▲23.5%
電子素材	2,825	2,913	88	+3.1%
営業利益	388	722	333	+85.9%



機能化学品 増収増益

- + エレクトロニクス市況の緩やかな回復に伴い、半導体及び電子部品向け製品の出荷が増加
- + 医薬品や農薬向け製品の出荷が増加
- + 製品価格の改定による損益へのプラス影響

機能樹脂 減収減益

- + 原材料価格の下落による損益へのプラス影響
- + 中国での拡販により、医療向け原料の出荷が増加
- 中国市場での競争激化により、光学関連分野向け粘・接着剤の出荷が減少

電子素材 増収増益

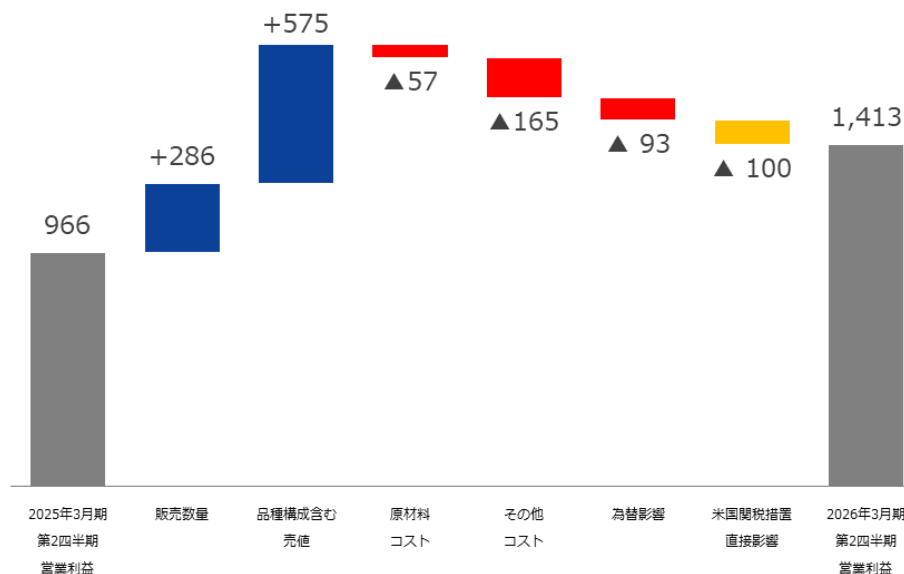
- + 電子部品向け製品の出荷が増加
- + 製品価格の改定による損益へのプラス影響



セグメント別状況 フィルム・シート製品事業

単位：百万円

	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	9,963	10,460	496	+5.0%
フィルム	708	753	45	+6.4%
ステッカー	3,588	3,785	197	+5.5%
再帰反射シート	5,665	5,921	256	+4.5%
営業利益	966	1,413	446	+46.2%



フィルム 増収増益

- + 中国での拡販により、レーザーマーキングラベルの出荷が増加

ステッカー 増収増益

- + 米国での拡販により、自動車向け3Dエンブレムの出荷が増加
- + ブラジルでの二輪車生産台数の増加により、二輪車関連製品の出荷が増加

再帰反射シート 増収増益

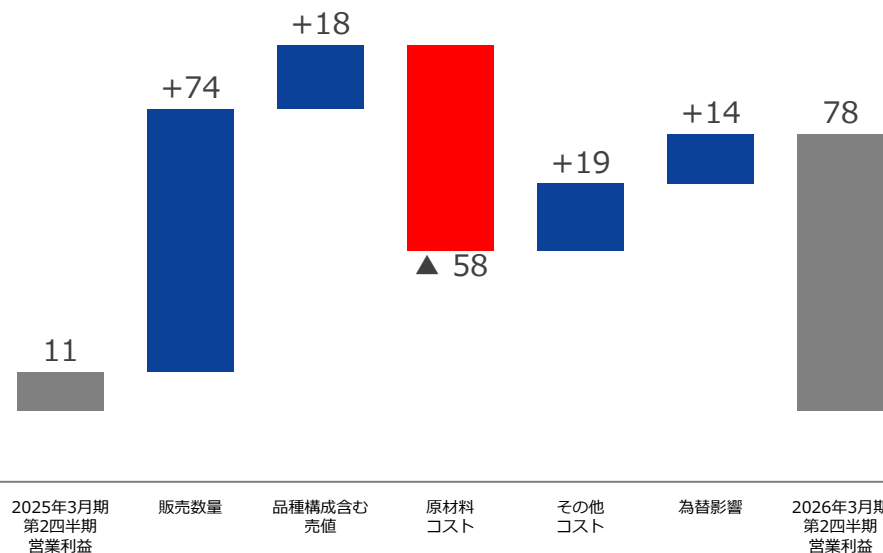
- 米国追加関税措置により、米国向け製品の出荷が減少
- + 欧州でのナンバープレート向け製品の出荷が増加
- + 製品価格の改定による損益へのプラス影響

セグメント別状況 建材関連事業



単位：百万円

	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	3,501	3,749	247	+7.1%
営業利益	11	78	66	+560.5%



増収増益

- アルミ地金価格高騰による原材料価格の上昇
- + 戸建住宅用アルミ建材の売上が増加



単位：百万円

	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	1,422	1,911	488	+34.3%
営業利益	91	190	99	+109.7%

増収増益

- + 製鉄分野向け大型工事案件の完工により、売上が増加
- + EPC事業（Engineering：設計 Procurement：調達 Construction：建設の3工程を一貫して引き受ける事業）の拡大により、売上が増加

【サマリー】 連結貸借対照表



単位：百万円

	2025年3月期	2026年3月期第2四半期	前期末比
現金及び預金	14,538	13,211	▲ 1,327
売上債権	13,928	14,637	709
棚卸資産	9,672	9,282	▲ 390
有形固定資産・無形固定資産	23,712	22,857	▲ 854
その他	1,509	1,805	295
資産合計	63,360	61,794	▲ 1,566
有利子負債	9,902	8,524	▲ 1,378
仕入債務	5,890	5,353	▲ 537
その他	9,662	9,862	200
負債の部	25,454	23,739	▲ 1,715
株主資本	25,388	26,569	1,180
その他の包括利益累計額	10,333	9,214	▲ 1,118
非支配株主持分	2,184	2,271	86
純資産の部	37,906	38,055	149
負債及び資本合計	63,360	61,794	▲ 1,566
D/Eレシオ	0.28	0.24	▲ 0.04
自己資本	35,721	35,783	62
自己資本比率	56.4%	57.9%	1.5ポイント

連結キャッシュフロー計算書



フリーキャッシュフローは1,483百万円。

単位：百万円

	2025年3月期第2四半期	2026年3月期第2四半期	前年同期比
税金等調整前当期純利益	1,381	2,363	982
減価償却費	940	895	▲ 45
運転収支	▲ 36	▲ 1,269	▲ 1,233
その他	▲ 563	▲ 266	298
営業活動によるキャッシュフロー	1,722	1,723	1
投資活動によるキャッシュフロー	99	▲ 239	▲ 338
フリーキャッシュフロー	1,822	1,483	▲ 339
借入金の増減額	▲ 1,455	▲ 1,352	103
配当金の支払額	▲ 465	▲ 372	93
その他	▲ 122	▲ 113	8
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 2,042	▲ 1,837	204
現金及び現金同等物に係る換算差額	927	▲ 744	▲ 1,671
現金及び現金同等物の増減額	706	▲ 1,098	▲ 1,805
現金及び現金同等物の期末残高	12,764	11,964	▲ 799



2026年3月期決算の通期業績予想

2026年3月期 連結業績予想



業績予想の修正はなし。

なお、米国追加関税措置における直接影響として営業利益1.4億円程度の悪化^注を見込む。

注：10月30日米中関税合意までを反映

単位：百万円

	2025年3月期		2026年3月期		2026年3月期		前期比	
	実績	利益率	5/13発表業績予想	利益率	現時点業績予想	利益率	増減額	増減率
売上高	48,727	-	49,000	—	49,000	—	273	+0.6%
営業利益	3,493	7.2%	3,300	6.7%	3,300	6.7%	▲ 193	▲ 5.5%
経常利益	3,761	7.7%	3,400	6.9%	3,400	6.9%	▲ 361	▲ 9.6%
当期純利益	2,211	4.5%	2,300	4.7%	2,300	4.7%	89	+4.0%
1株当たり配当	中間	40円	—	41円	—	41円	2円	+2.5%
	期末	40円	—	41円	—	41円		

2026年3月期は前期より増額となる年間配当82円を予定。

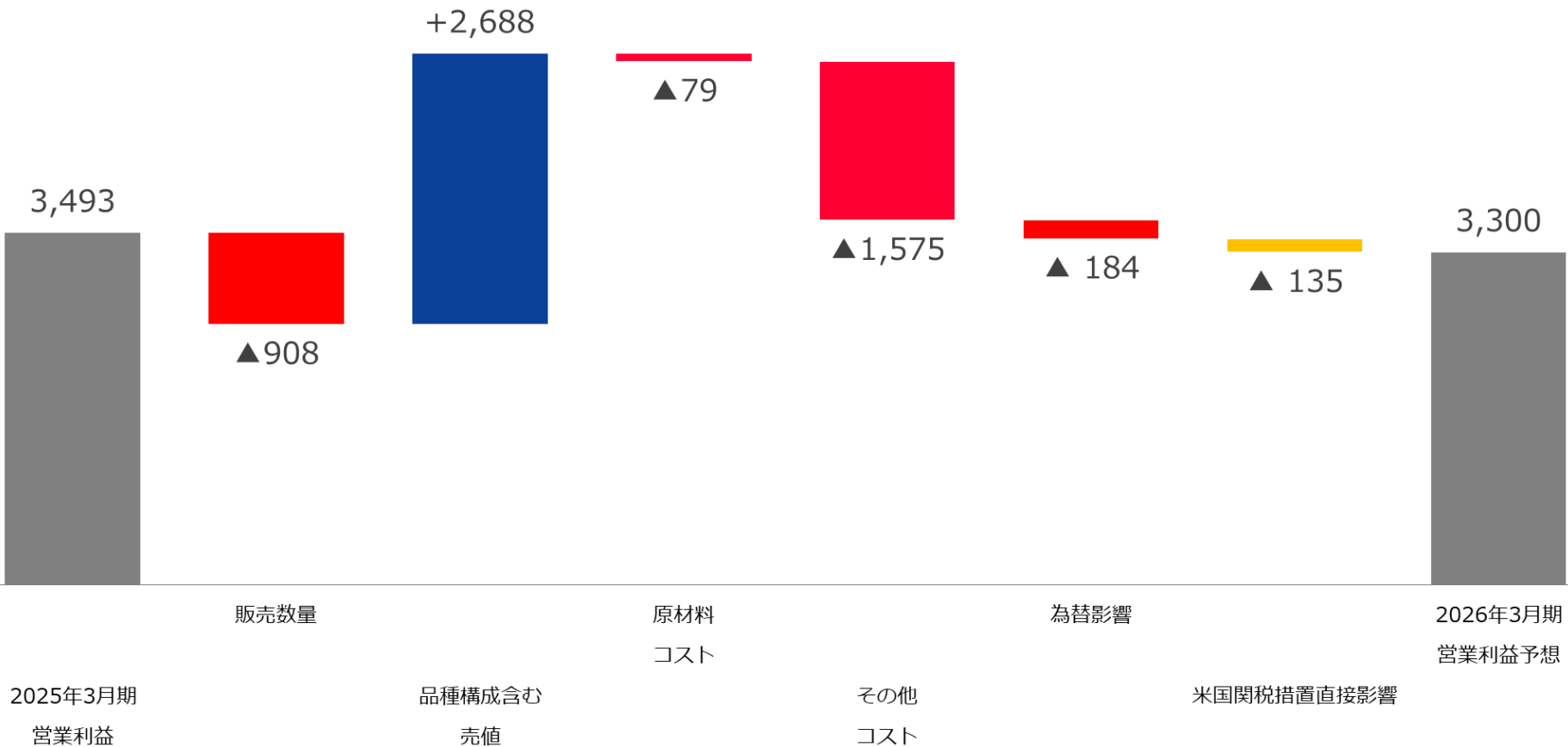
株主還元方針は、配当性向30%以上を目途に安定配当の継続を目指す。

営業利益増減要因分析 2025年3月期v.s.2026年3月期



前年同期比 193百万円**減益**

単位：百万円



セグメント別 下期の事業見通し（上期比較）



電子・機能製品	機能化学品	- お客様都合により、電子部品向け及び医薬品向け製品の出荷が上期に集中し、下期は減少
	機能樹脂	- 中国市場での競争激化により、光学関連分野向け粘・接着剤の出荷が減少
	電子素材	+ 半導体用金型クリーニング材の流通段階での在庫調整が上期に終了し、出荷が増加 + エレクトロニクス市況の緩やかな回復により、電子部品向け製品の出荷が増加
フィルム・シート製品	フィルム	+ 日本及び中国での拡販により、レーザーマーキングラベルの出荷が増加
	ステッカー	- 出荷量は上期並みも、為替による損益へのマイナス影響
	再帰反射シート	- 出荷量は上期並みも、為替による損益へのマイナス影響
建材関連		+ 超高層マンション向け高強度高機能手すりの売上が増加 - 戸建住宅用アルミ建材の売上が減少
エンジニアリング		+ EPC事業（Engineering：設計 Procurement：調達 Construction：建設の3工程を一貫して引き受ける事業）の拡大により売上が増加 - 製鉄分野向け大型工事案件の売上が減少

セグメント別 業績予想



単位：百万円

		2025年3月期	2026年3月期	2026年3月期	前期比	
		実績	5/13発表業績予想	現時点業績予想	増減額	増減比
電子・機能製品	売上高	17,414	17,800	16,600	▲ 814	▲4.7%
	営業利益	936	1,840	1,280	344	+36.8%
フィルム・シート製品	売上高	20,955	20,300	21,300	345	+1.6%
	営業利益	2,568	1,940	2,510	▲ 58	▲2.3%
建材関連	売上高	7,004	7,400	7,400	396	+5.7%
	営業利益	75	140	80	5	+6.7%
エンジニアリング	売上高	3,598	4,000	4,000	402	+11.2%
	営業利益	433	300	290	▲ 143	▲33.0%
連結調整	売上高	▲ 245	▲ 500	▲ 300	▲ 55	-
	営業利益	▲ 518	▲ 920	▲ 860	▲ 342	-
連結合計	売上高	48,727	49,000	49,000	273	+0.6%
	営業利益	3,493	3,300	3,300	▲ 193	▲5.5%



資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

PBR改善に向けた取り組み



PBRの改善が重要な経営課題と認識、ROEとPERの両面より施策を推進。
2023年3月期PBR0.40から2026年3月期第2四半期は0.58へ改善傾向。

PBR

=

ROE

×

PER

R O E	事業戦略	戦略市場	成長ドライバーの拡販や新たな成長ドライバーの創出による事業成長 ⇒市況回復遅れにより、次期中期経営計画に向けて戦略再構築
		基盤事業	収益性の低い基盤事業の体質強化 ⇒損益分岐点管理等の経営管理強化、低収益事業の見極め
		株主還元	配当性向30%以上を目途に安定配当継続実施 ⇒2023年度80円配当、2024年度80円配当・自己株式取得2億円、 2025年度82円配当
	資本戦略 財務戦略	有利子負債	健全な財務体質を維持しつつ、必要性に応じた有利子負債の活用検討 ⇒戦略投資等での活用検討
		資金効率化	政策保有株式等の資産売却やグループ会社も含めた資金の活用 ⇒政策保有株式売却ほぼ終了、 グループ会社も含めた資金を戦略投資等に活用
P E R	PER向上	サステナビリティ	サステナビリティ経営の推進 ⇒ GHG排出量の2030年ロードマップの策定・ 実行 、人権方針策定等

太字：現在、取り組んでいる施策



戦略市場に関する取組み

- 戦略市場分野を「半導体」「電子デバイス」「環境」「ライフ」「モビリティ」と定め、以下の重点施策を実施。この方向性を維持し、次期中期経営計画にてさらに強化していく。

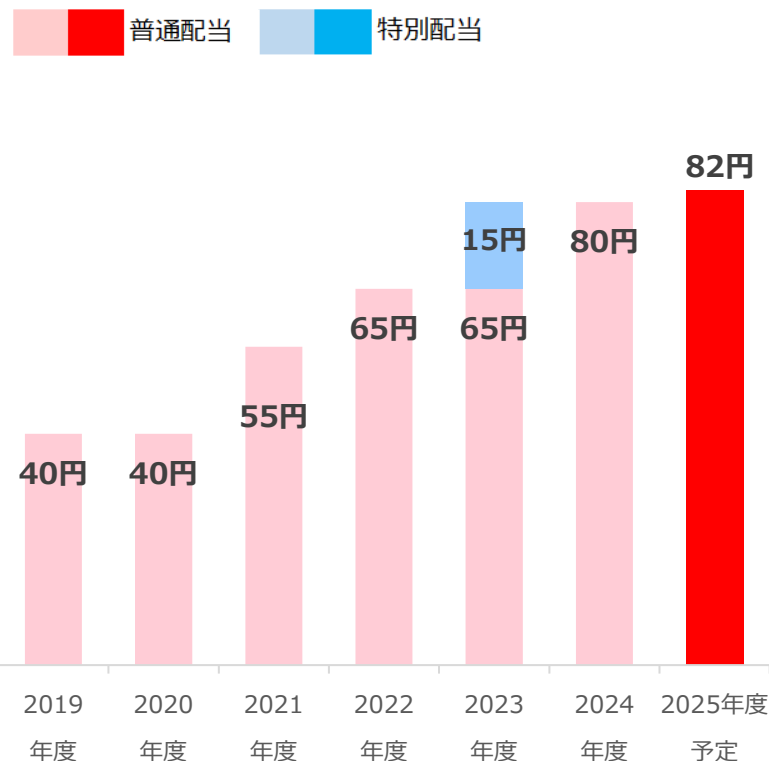
戦略市場分野	実施事項	今後の方向性
半導体	✓ 半導体材料用化学品やフォトレジスト用添加剤等へのリソース重点配分の実施 ✓ 半導体材料用化学品の設備増強や次世代製品の開発推進	➤ 新規お客様や用途開拓の推進と、新製品開発による製品の高付加価値化を目指す
電子デバイス	✓ 電子部品製造用化学品や電子部品用バインダーなどでの新たなニーズ探索や、新製品創出に向けての市場展開	➤ 高速通信や信頼性向上をキーワードに、電子材料向け新製品開発による更なる付加価値拡大を目指す
環境	✓ 製鉄・電力分野でのカーボンニュートラルトランジション設備拡販	➤ ゼロカーボンスチール・水素製造向け設備への参画
ライフ	✓ 超高層ビル向け高機能・高強度手すり、医農薬向け製品の販売拡大	➤ クオリティ・オブ・ライフ向上のための製品・技術の市場開拓、ニーズのキャッチアップ
モビリティ	✓ ナンバープレート向け再帰反射シート地域拡大（欧州、米国等） ✓ モビリティ向け製品拡充（3Dエンブレム、レーザーマーキングラベル）	➤ 各製造・販売拠点や大手ディストリビューター等グローバルサプライチェーンの有効活用による、 ➤ さらなる販売地域の拡大や新規顧客開拓



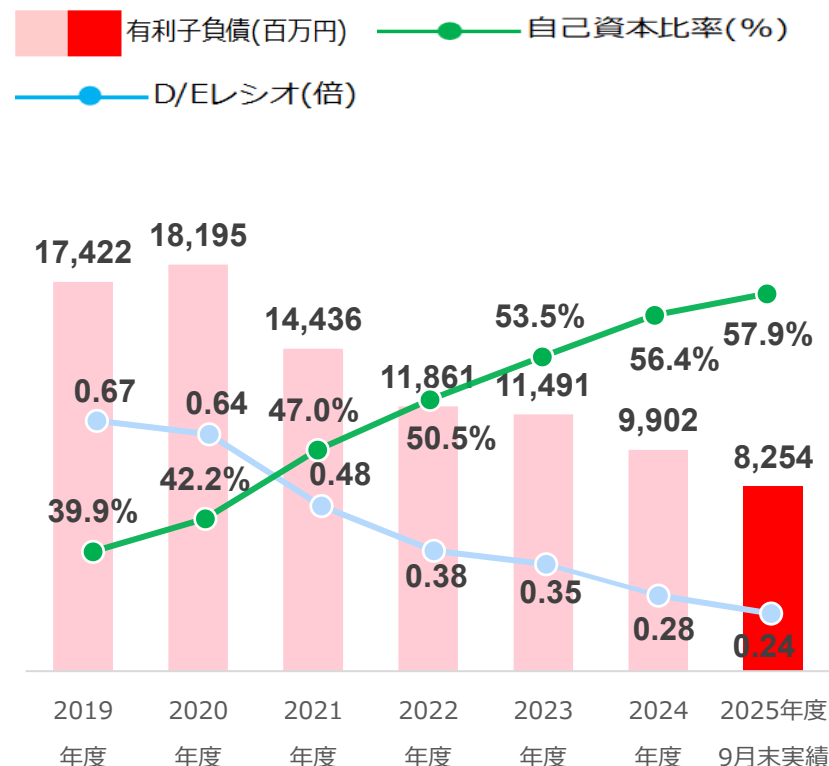
株主還元／有利子負債に関する取組み

- 配当性向30%以上を目途に安定配当継続、増配予定。引き続き一層の株主還元の充実を図る。
- D/Eレシオは目標を上回り0.24倍まで低下、自己資本比率は57.9%。財務の健全性を確保。今後は有利子負債の活用も検討。

配当の推移



有利子負債・D/Eレシオ・自己資本比率

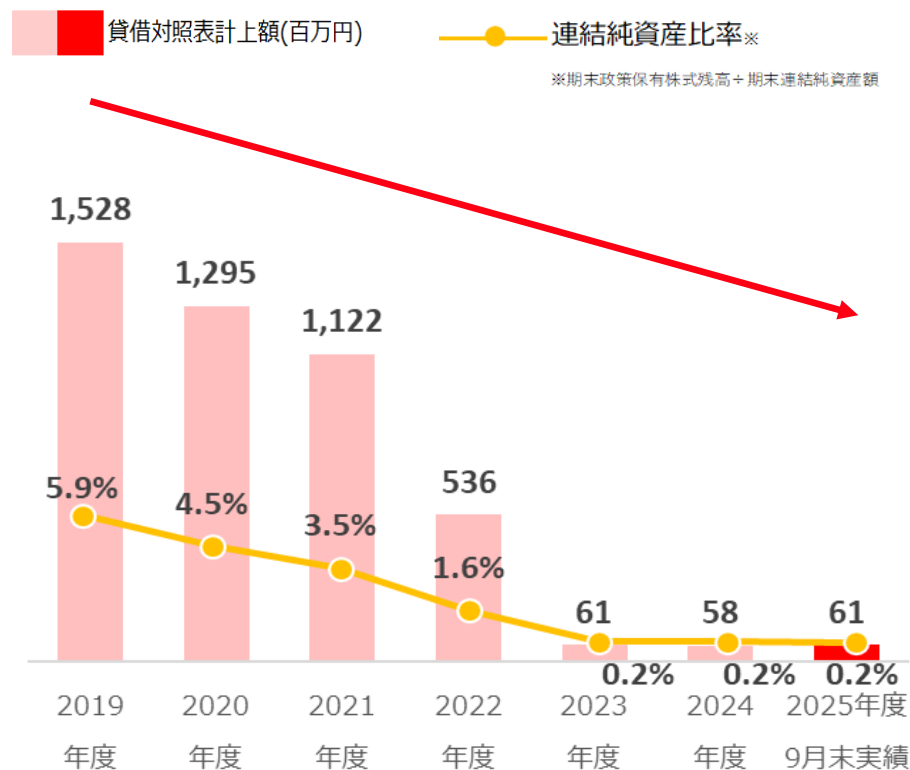




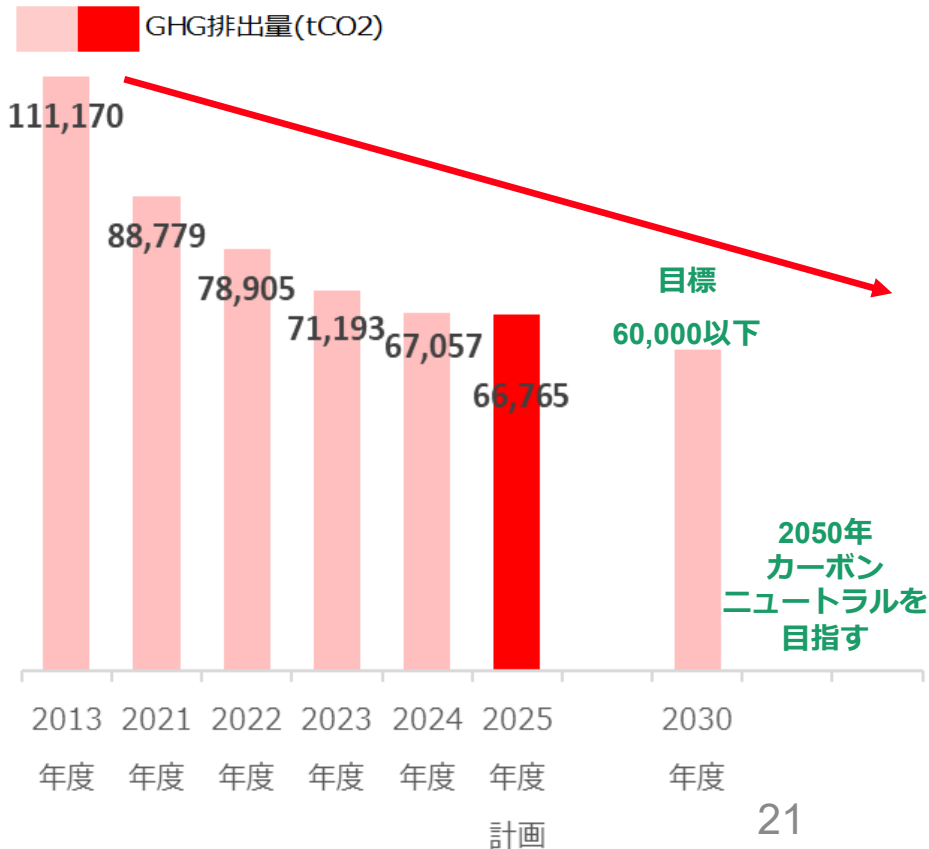
資金効率化／サステナビリティに関する取組み

- 資本戦略では、政策保有株式の売却に目途、連結純資産比1%以下。
- サステナビリティでは、省エネ活動や生産プロセス改善、再生可能エネルギーへの切替えなどにより、GHG排出量削減を着実に推進。

政策保有株式の削減状況



GHG排出量削減状況





TOPICS

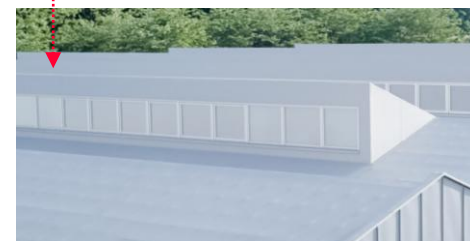
光拡散フィルムがデサントアパレル新工場の天窓に採用

「光拡散フィルム」が、デサントアパレル株式会社水沢工場（岩手県奥州市）内の新工場において、天窓部分に採用されました。

本製品は、強い直射光の眩しさを和らげ、光を広く均一に拡散させることで、快適な室内環境を実現します。特に、太陽光が直接差し込むことで生じる床面・壁面・家具などへの強い光を軽減、空間全体に柔らかく自然な光を届ける効果があります。これにより、作業効率の向上と省エネルギーにも寄与します。



デサントアパレル水沢工場天窓に採用された「光拡散フィルム」



天窓拡大図



ナンバープレート用再帰反射シート 参入地域拡大中

成長ドライバーである「ナンバープレート用再帰反射シート」が、アブダビで初めて採用され、中東市場への参入を実現しました。中東の過酷な高温環境下でも優れた耐候性を発揮する点が高く評価された結果です。

さらに今期は、モザンビーク（アフリカ）やルクセンブルク（欧州）でも初受注を達成。地域特性に応じた製品別の地域戦略と各国仕様への迅速な対応力が奏功しました。今後も、高耐候性・高視認性を強みに、グローバル市場での展開を加速してまいります。



アブダビの
ナンバープレート



モザンビークの
ナンバープレート



ルクセンブルクの
ナンバープレート

米国Newsweekにおける特集「日本の隠れたチャンピオンの台頭」 において日本カーバイド工業が掲載されます

日本カーバイド工業株式会社は、米国の国際的な経済・社会誌『Newsweek』の特集「日本の隠れたチャンピオンの台頭」に掲載される予定です。当社が注力するエレクトロニクスおよびセーフティ領域での取り組みや、独自技術による「One & Only」製品の展開、そして社会課題への対応を通じた価値創出について紹介されます。

また、代表取締役社長 杉山孝久のインタビュー記事が、成長企業の取り組みを世界に発信するWEBメディア『The Worldfolio』にも掲載される予定です。ぜひご覧ください。



機関投資家の皆様からのご質問・お問い合わせ先

日本カーバイド工業株式会社

経営企画部 広報・IRグループ

メールにてお問い合わせください
prir@carbide.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えてものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。